



日本コカ・コーラ株式会社

日本緑茶の持続可能性に向けた GAP普及の取り組み

- 取り組みの背景
- 目標達成のための仕組みづくり
- 展開
- 飲料事業への意義

9月10日

日本コカ・コーラ(株)

原料調達本部 農産原料部 遠藤誠司

はじめに

日本のコカ・コーラシステムは清涼飲料の製造販売を基幹事業としております。

炭酸飲料



果汁飲料



スポーツ飲料



茶系飲料



コーヒー飲料



水



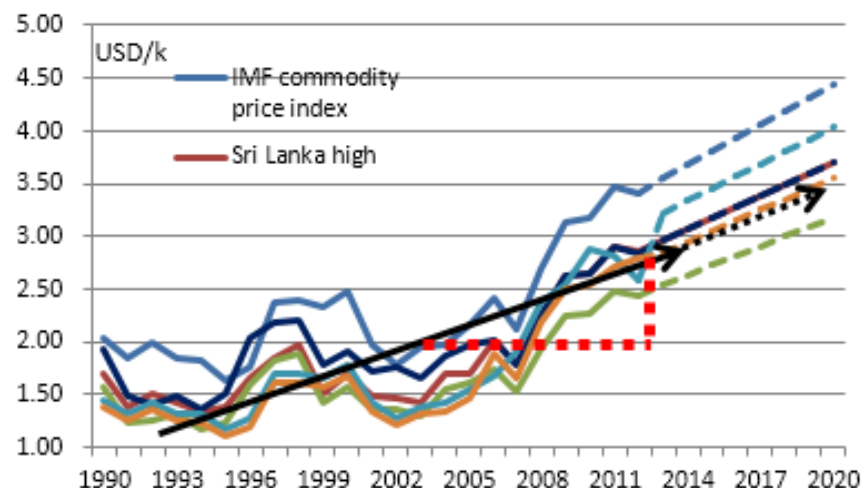
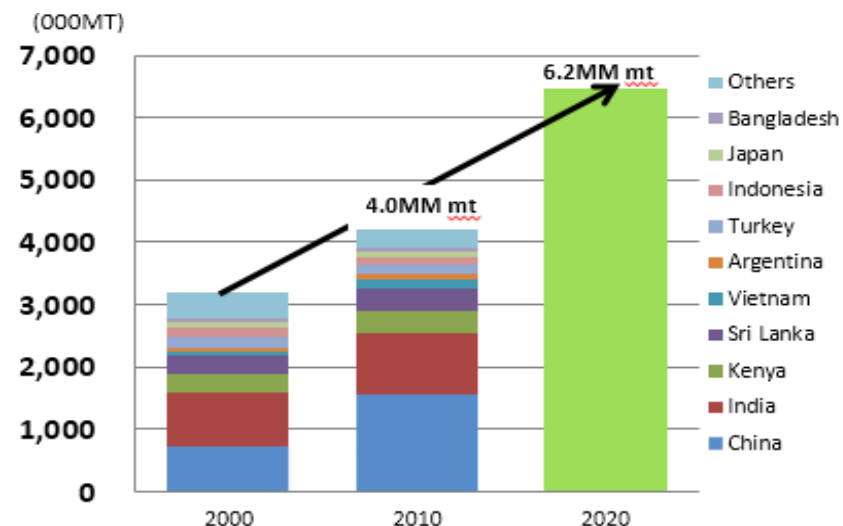
エネルギー飲料



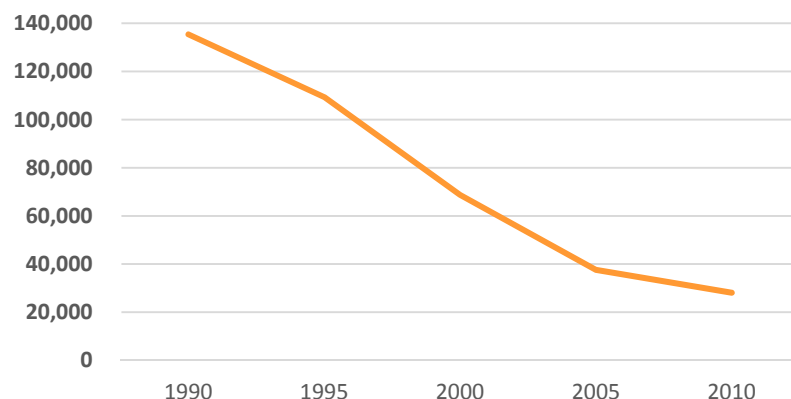
今回は販売の約25%を占める茶類飲料の中で、特に国産茶原料のGAP認証に関する取り組みについてご紹介します。

取り組みの背景 -将来に向けた事業継続のための生物資源対策-

国際的な茶需要の上昇と相場上昇の懸念



減少する茶生産農家数



内外の不安定要因

消費税問題



原料相場高



円安



販売チャネルの変化

値下げ競争激化



少子高齢化

人口減少

TPP

外交問題

長引くデフレ

企業コンプライアンス

食の安全

環境問題....

取り組みの背景 -企業の社会的責任と食品安全-

Slavery issues

India Modern-day slavery in focus

The tea pickers sold into slavery

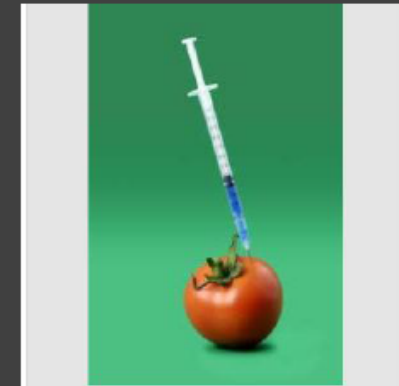
One day Sonila was living on an Assam plantation. The next, she had been sold into slavery hundreds of miles from home. Gethin Chamberlain joins the race to save her – and uncovers a flourishing slave trade that begins with the cost of tea



Child labors issues



Food Safety



25

取り組みの背景 -持続可能な農業の基本原則 SAGP発動- Sustainable Agricultural Guiding Principle

ザ コカ・コーラカンパニーの持続可能な農業の基本原則

人権と職場権利	1. 結社の自由と団体交渉	24項目
	2. 児童労働、強制労働および労働虐待の禁止	
	3. 差別の解消	
	4. 勤務時間および賃金	
	5. 安全で健康的な職場の提供	
	6. 地域社会および先住民の権利	
環境	7. 水管理	26項目
	8. エネルギー管理と気候保護	
	9. 自然生息環境および生態系の保全	
	10. 土壌管理	
	11. 作物保護	
農場管理システム	12. 収穫および収穫後の取り扱い	14項目
	13. 生殖物質の識別、選定と取り扱い	
	14. 管理システム、記録保管および透明性	
	15. 誠実な事業活動	

→ 世界的に最も必要とされているエリア

→ JGAPと要求事項が近いエリア

グローバル目標: 2020年までに全ての農産原料のSAGP遵守
日本コカ・コーラ目標: 2015年までに茶・コーヒー原料のSAGP遵守

SAGP対象となっている農産原料



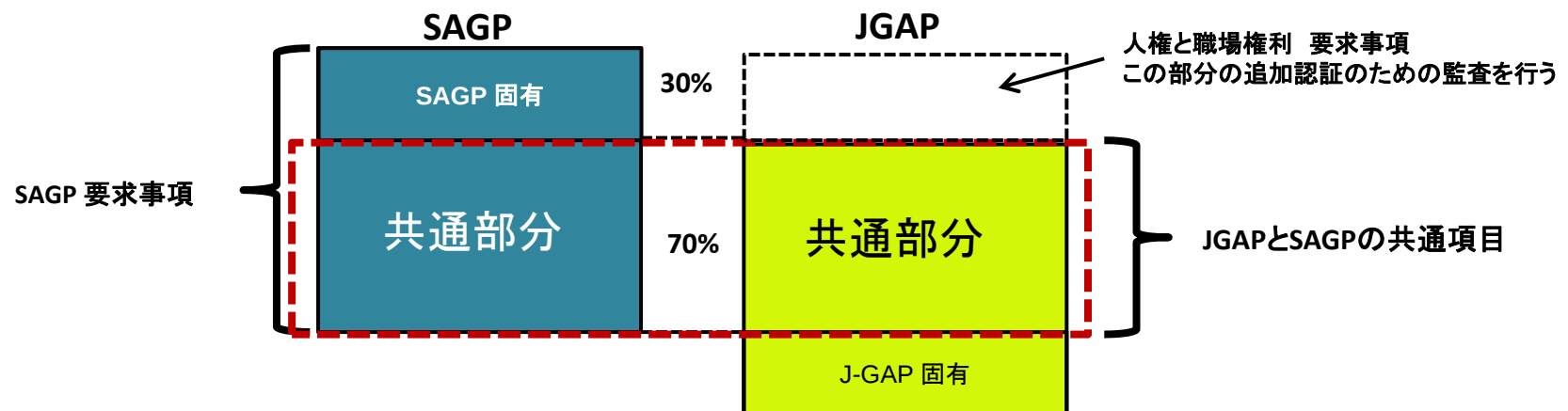
目標達成のための仕組み作り

SAGP展開のためのステップを以下のように策定した。

- フェーズ1 SAGP認証の仕組みづくり
- フェーズ2 原料茶供給者との合意と生産者への説明
- フェーズ3 認証プログラムに向けた基準書・帳票類作成
- フェーズ4 現地訪問による監査・認証

フェーズ1：SAGP認証の仕組み作り

SAGPの要求事項は約70%のJGAPとの同等性が確認できたため、JGAP取得農園を基幹としたSAGP認証スキームを展開することとした。



展開 -原料茶供給者との協業 2013年 10月～-

フェーズ2： 茶生産者を訪問し、コカ・コーラシステムの持続可能な農業の説明と、協力要請



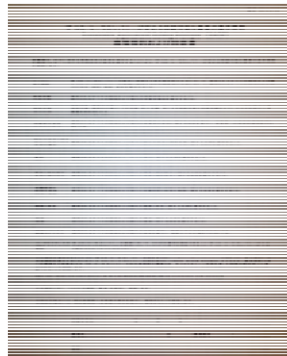
アトランタ本社による持続可能な農業についての生産者激励と2年間に及ぶ合同説明会



- Classified - Internal use

展開 -茶生産者への説明会と認証監査 2014年9月～-

フェーズ3: 認証プログラムに向けた基準書・帳票類作成



JGAPとSAGPの差異基準・自己審査ガイド・参照法規等

項目	JGAP基準	SAGP基準
1. 栽培管理	1.1 茶葉の品質を向上させるために、適切な肥料・農薬の施用を行う。	1.1 茶葉の品質を向上させるために、適切な肥料・農薬の施用を行う。また、環境への負荷を低減するための措置を講ずる。
2. 労働管理	2.1 労働者の健康と安全を確保するための措置を講ずる。	2.1 労働者の健康と安全を確保するための措置を講ずる。また、労働者の権利を尊重するための措置を講ずる。

項目	JGAP基準	SAGP基準
3. 環境管理	3.1 環境への負荷を低減するための措置を講ずる。	3.1 環境への負荷を低減するための措置を講ずる。また、環境保護のための措置を講ずる。
4. 社会貢献	4.1 地域社会への貢献を促進するための措置を講ずる。	4.1 地域社会への貢献を促進するための措置を講ずる。また、社会貢献のための措置を講ずる。

項目	JGAP基準	SAGP基準
5. 品質管理	5.1 茶葉の品質を向上させるための措置を講ずる。	5.1 茶葉の品質を向上させるための措置を講ずる。また、品質管理のための措置を講ずる。
6. 透明性	6.1 経営活動の透明性を高めるための措置を講ずる。	6.1 経営活動の透明性を高めるための措置を講ずる。また、透明性向上のための措置を講ずる。

フェーズ4: 現地訪問による監査・認証



作成されたSAGP認証書

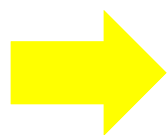
結果

展開規模

	2014年～2015年 JGAP+SAGP取得実績 (予定含む)	備考
生産者組合数	133	農家数 約3,000件
JGAP取得作付面積	約6,000ヘクタール	日本の茶栽培面積の10%

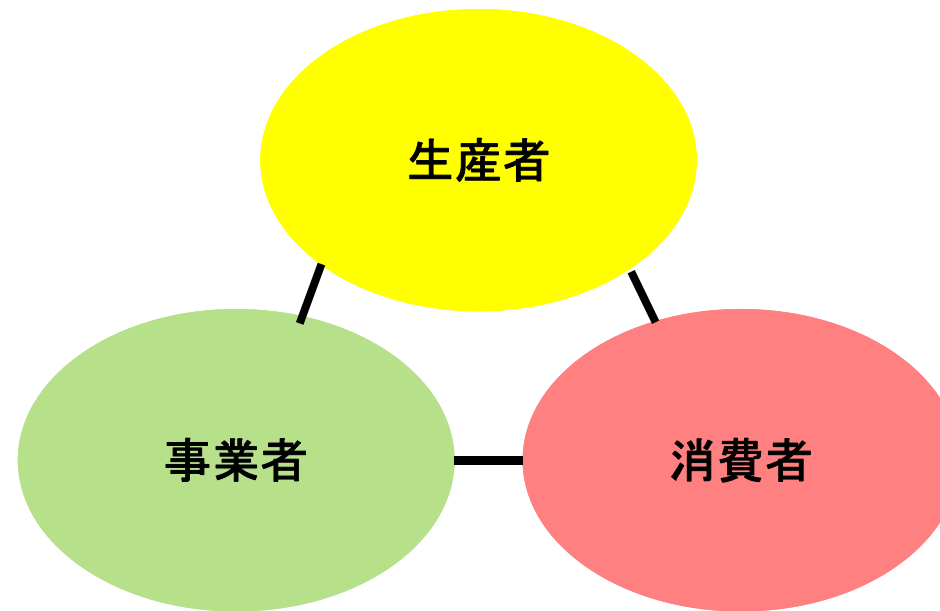
期待される効果

- 飲料原料の認証化による品質の向上と長期的取引の実現
- 飲料事業と生産者の結びつきの可視化によるアカウントビリティーの向上
- 生産地と近い調達活動による生産者視点のマーケティング強化



生産者 事業者 消費者 全体にとってポジティブな結果

最後に -GAP普及と今後の計画-



- GAP取得農場の拡大を行い、結果として生産者～消費者に至るフードチェーン全体にとって良好な関係を作り出す可能性が見えました。
- 企業としての品質責任、説明責任を果たす上で生産者を正しく理解し双方の方針を共有することの大切さを再認識した大変意義のある取り組みでした。
- 茶を始めとし、弊社農産原料はSAGPによる持続可能性の向上を進めていきます。生産者と継続的に協業し、日本の農業を盛り立てていく姿勢が事業者として重要であると考えております。

ご清聴 ありがとうございます